

---

令和元年度（平成31年度）  
全国学力・学習状況調査結果及び分析

---

【概要版】

佐倉市教育センター

# 目 次

<u>I 令和元年度全国学力学習状況調査について</u> .....	1
<u>II 教科の概要</u> .....	2
○ 小学校 国語 .....	2
○ 小学校 算数 .....	3
○ 中学校 国語 .....	4
○ 中学校 数学 .....	5
○ 中学校 英語 .....	6
<u>III 児童生徒質問紙の概要</u> .....	7
<u>IV 学校質問紙の概要</u> .....	9

# I 令和元年度 全国学力・学習状況調査について

## 1 調査実施日

平成31年4月18日（木）

## 2 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（「平成31年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領」より）

## 3 結果公表の趣旨

本調査において、市内小中学校全体の結果を公表することは、佐倉市教育委員会が保護者や地域住民の方々に対し、説明責任を果たすこととなります。また、分析した調査結果は、各学校における教育活動の改善に生かすとともに、佐倉市教育委員会の施策に資するために活用します。

ただし、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。以上のことを考慮し、学校では、教育活動の取組状況と本調査結果の分析を踏まえた指導改善策を併せて示すことで、児童生徒の学力向上に資するようお願いいたします。

## 4 結果の概況

### (1) 小学校

【佐倉市の平均正答率】 ・国語：64% ・算数：66%

- ・国語、算数は全国及び県の平均正答率と同程度であった。
- ・国語は、書く能力及び伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の能力が概ね良好であった。
- ・算数は、数量や図形についての技能における正答率が高かった。
- ・算数は、数量や図形についての知識・理解、問題形式では、記述式の正答率について課題が見られた。

### (2) 中学校

【佐倉市の平均正答率】 ・国語：73% ・数学：58% ・英語：55%

- ・国語、数学、英語どの教科においても、全国・千葉県の前年度と同程度であった。
- ・国語は、言語についての知識・理解・技能が概ね良好であった。
- ・数学は、数学的な技能が比較的良好であった。
- ・英語は、聞くこと的能力が概ね良好であった。

## Ⅱ 教科の概要【小学校国語】

### 1 小学校国語の平均正答率

問題数 14問	佐倉市(公立)	64%
	千葉県(公立)	63%
	全国(公立)	64%

### 2 小学校国語に関する調査の結果の概要

- 書く能力及び伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の能力が概ね良好であった。
- ▲選択式の問題形式に多少の課題が見られた。
- ▲「話す・聞く能力」に課題が見られた。

### 3 小学校国語に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- 情報を相手に分かりやすく伝えるために、記述方法を工夫し、適切に活用することができている。
- 文と文との意味やつながりを考え、接続語を使って、内容を分けて書くことができています。
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができています。
- ▲目的に応じて、本や文章全体を把握して効果的に読むことに課題が見られる。
- ▲ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることに課題が見られる。
- ▲目的に応じて、質問を工夫することに課題が見られる。

### 4 小学校国語の改善策

- ☆調べ学習等で利用する機会の多い図鑑や事典を効果的に読むには、目次や索引等を活用できるようにする。その際には、それぞれの特徴を理解し、自分の目的や状況に応じて活用していくことができるようにする。
- ☆ことわざや慣用句の意味や使い方を正しく理解し、日常生活の中で使うようにするには、普段の学習や生活の場面で見つけたことわざや慣用句について、辞典などで意味や使い方を確認し、ノートなどに記録したり、実感をもって、捉えたり使ったりすることが大切である。
- ☆話を聞くときには、「何のために、どのような情報を聞きたいのか」目的を明確にする。また、話の展開にそって、目的に応じた質問の仕方を考え、相手の意図を捉えて質問できるようにする。
- ☆漢字の指導は、漢字辞典を使って意味を調べたり、同音異義語を使い分けた短文づくりなどをする学習を取り入れ、文や文章の中で正しく使うことができるようにすることが大切である。

## Ⅱ 教科の概要 【小学校算数】

### 1 小学校算数の平均正答率

問題数 14問	佐倉市(公立)	66%
	千葉県(公立)	66%
	全国(公立)	67%

### 2 小学校算数に関する調査の結果の概要

- 数量や図形についての技能が概ね良好であった。
- 問題形式では、短答式の正答率が良好であった。
- ▲数量や図形についての知識・理解に課題が見られた。
- ▲記述式の問題形式の正答率に課題が見られた。

### 3 小学校算数に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- 図形の性質や構成要素に着目し、ほかの図形を構成することが概ねできている。
- 示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして解答することが概ねできている。
- 棒グラフから資料の特徴を読み取ることが概ねできている。
- ▲図形の面積の求め方を理解し、その説明を記述することに課題が見られる。
- ▲減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方について成り立つ性質を記述することに課題が見られる。
- ▲示された除法の式の意味を理解することに課題が見られる。

### 4 小学校算数の改善策

- ☆図形の面積の求め方を理解し、その説明を記述するには、図形の構成についての見方を働かせ、図形の面積を既習の求積公式を使って求め、求め方を説明できるようにする。面積の求め方について説明し合う活動を取り入れることも大切である。
- ☆計算の順序についてのきまりは、暗記するだけでなく、具体的な場面と関連付けながら確実にできるようにすることが重要である。また、計算の順序についてのきまりを確実に理解するために、四則を混合させたり、( ) を用いたりして、一つの式に表すことも大切である。
- ☆除法の式の意味を理解するためには、少数の除法を整数の除法に直すときに、除法に関して成り立つ性質が用いられていることを確認し、式がそれぞれ何を求めている式なのかを、具体物や図、数直線などを用いて考察する活動を取り入れる。
- ☆図形の性質や構成要素に着目して考察し、基本的な平面図形について理解できるようにすることや、色板などの具体物を操作しながら、図形を構成したり分解したりして、図形についての見方や感覚を豊かにすることが大切である。

## Ⅱ 教科の概要 【中学校国語】

### 1 中学校国語の平均正答率

問題数 10問	佐倉市(公立)	73%
	千葉県(公立)	72%
	全国(公立)	73%

### 2 国語に関する調査の結果の概要

- 「言語についての知識・理解・技能」が概ね良好であった。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について概ね良好であった。
- ▲「書く能力」に課題が見られた。
- ▲記述式の問題形式の正答率が低く、無回答率が高い傾向が見られた。

### 3 国語に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことができている。
- 話し合いでの発言の役割について説明したものから、適切なものを選ぶことができている。
- 話の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解することができている。
- ▲伝えたいことがらについて、根拠を明確にして書くことに課題が見られる。
- ▲文章の展開に即して、情報を整理し、内容を捉えることに課題が見られる。
- ▲話し合いでの発言について、説明したものの中から、相手にわかりやすく伝わる表現を選択することに課題が見られる。

### 4 中学校国語の改善策

- ☆目的や意図に応じて相手にわかりやすく書く力を身に付けるために、1学年では、根拠を明確にして書く。2学年では、相手に効果的に伝えることを意図して、説明や具体例を加え、描写を工夫して書く。3学年では、論理の展開を工夫するとともに、資料を適切に引用して書くようにしていく。
- ☆内容を的確に捉える力をつけるためには、文章の特徴を把握するとともに、今までの読書経験や体験などを踏まえ、内容や表現を想像、分析、比較、推論などによって相互に関連付けて読むようにする。どのようにすれば必要な情報にたどり着くことができるかについて検討するようにすることが大切である。
- ☆自分の考えをわかりやすく伝えるためには、話す速度や音量、間の取り方、相手にわかりやすい語句の選択、相手や場に応じた言葉遣いを意識して話す。また、他の人の話を聞きながら、必要に応じて質問し、自分の考えとの共通点や相違点を整理することが大切である。

## Ⅱ 教科の概要 【中学校数学】

### 1 中学校数学の平均正答率

問題数 16問	佐倉市(公立)	58%
	千葉県(公立)	58%
	全国(公立)	60%

### 2 数学に関する調査の結果の概要

- 「数学的な技能」が比較的良好であった。
- ▲「数学的な見方や考え方」及び「数量や図形についての知識・理解」に課題が見られた。
- ▲記述式の問題形式の正答率に課題が見られた。

### 3 数学に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- 予想に対し、与えられた図が反例となっていることの正しい説明を選ぶことが概ねできている。
- 平行移動の意味を理解し、平行移動したときの移動距離を求めることが概ねできている。
- 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を概ね理解している。
- ▲事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題が見られる。
- ▲資料の傾向を的確に捉え、判断理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られる。
- ▲グラフ上の座標の差を事象に即して解釈することに課題が見られる。

### 4 中学校数学の改善策

- ☆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明するには、問題解決の方法や手順を説明する場面を設定し、表、式、グラフなどの「用いるもの」とその「用い方」について明らかにすることが大切である。
- ☆データの傾向を捉えるための根拠を明らかにするには、目的に応じて収集したデータや整理した表から、代表値を的確に求める活動を行うことが大切である。
- ☆日常生活や社会の事象における問題には、目的に応じて収集したデータを収集し、ヒストグラムなどに整理し、そのデータ分布の傾向を読み取り、それに基づいて判断し、統計的に問題解決する活動を充実させることが大切である。
- ☆グラフを事象に即して解決できるようにするには、問題解決において用いたグラフ上の2点の座標の差を事象に即して解釈する活動を取り入れる。

## Ⅱ 教科の概要 【中学校英語】

### 1 中学校英語の平均正答率

問題数 21問	佐倉市(公立)	55%
	千葉県(公立)	56%
	全国(公立)	56%

### 2 中学校英語に関する調査の結果の概要

- 「外国語理解の能力」に関する問題が概ね良好であった。
- 「聞くこと」の正答率が概ね良好であった。
- ▲外国語表現の能力・言語や文化についての知識・理解に課題が見られた。
- ▲問題形式では、短答式に課題が見られた。

### 3 中学校英語に関する調査の結果に見られる特徴と現状分析

- 語と語の連結による音の変化を捉え、情報を正確に聞き取ることが概ね良好である。
- まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解している。
- ▲聞いて把握した内容について、適切に応じることに課題が見られる。
- ▲まとまりのある文章を読んで、説明文の大切な部分を理解することに課題が見られる。
- ▲書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるように、話の内容や書く人の意見などを捉えることに課題が見られる。

### 4 中学校英語の改善策

- ☆聞いた内容について適切に答えるには、話し手からの質問や指示、依頼、提案などを聞いて、その内容や意図を正しく理解し、適切に応答する活動を繰り返すようにする。日頃から、聞いた内容を理解するだけでなく、しっかりと聞く目的を明確にした指導を心がける。
- ☆まとまりのある文章を読む際には、文章全体を通して読み、複数の情報の中から、聞き手が最も伝えたいことは何かを判断することが大切である。文章を漠然と読むだけでなく、繰り返し用いられている語句や問いかけなどの手がかりを基にして、最も大切な語句や文を選んだり、各段落の働きを理解したりすることが重要である。
- ☆自分の考えを述べる際には、内容を理解するだけでなく、読み手として、主体的に考えたり、判断したりしながら理解していくことが大切である。実際に言語を使用し、互いの気持ちを伝え合う活動を行い、発音・イントネーションなどの音声に関すること、語句や文の構造、文法事項に関する指導を丁寧に進めていくことが大切である。

### Ⅲ 児童生徒質問紙の概要

※ ○：良好なもの ▲：課題が見られるもの □：その他

#### 1 基本的な生活習慣等

- 基本的な生活習慣は概ね身につけていると言え、健全に成長している様子が伺える。
- 朝食を食べている児童生徒の割合は高いが、中学生になると、毎日食べる割合がやや減少傾向にある。
- 家の人と学校の話をする割合は、中学校より小学校の方が高い傾向が見られた。

#### 2 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

- 「学校のきまりは守っている」「いじめはいけないと思う」など、規範意識や道徳意識に関する肯定的回答の割合が高く、良好であった。
- 自尊感情は、概ね高い割合であった。
- 将来の夢や目標を持っている児童は比較的多いものの、小学校に比べて中学校は少なくなっていた。

#### 3 学習習慣等

- 家庭での学習時間は、小学校よりも中学校の方が多割合が高かった。
- ▲「1日の家庭学習時間が30分より少ない」「まったくしない」児童生徒の割合が、やや高い傾向にあり、家庭での学習に関して課題が見られた。
- 平日の家庭学習の時間は、小学校では1～2時間が最も多く、次いで30分～1時間であった。中学校では、小学校と同じく1～2時間が最も多く、次いで2～3時間が多かった。

#### 4 地域や社会に関わる活動の状況等

- 地域の行事への参加は、全国・千葉県に比べて良好な結果であった。
- 地域や社会をよくするために何をすべきか考える児童生徒の割合が高い傾向であった。
- 住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う割合は、中学校より、小学校の方が高い傾向であった。

#### 5 部活動に関わる内容

- 学校の部活動に参加している割合が高く、意欲的に活動している様子が伺えた。
- 部活動に参加している理由として、「体力・技術を向上させたい」という生徒が一番多かった。

## 6 ICTを活用した学習

▲ICTを活用した学習については、課題が見られた。特に中学校での活用が少ない傾向にあった。

## 7 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組

○小・中学校ともに、話し合い活動を通して、自分が努力すべきことを決めたり、自分の考えを深めたりすることができていると感じている児童生徒が比較的多かった。

▲小・中学校ともに、自分の考えを発表する時に、自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組み立てなどを工夫しながら話をすることに課題が見られた。

## 8 国語の学習に対する興味

○多くの児童生徒が、「国語の授業内容はよく分かる」と肯定的に感じている様子が見られた。また、「国語の勉強は大切だと思う」「国語の授業で学習したことが将来社会に出たときに役立つと思う」と考えている児童生徒の割合も高かった。

○文章で書く問題において、最後まで解答を書こうと努力する児童生徒の割合が高く、意欲的に取り組んだ様子が伺えた。

▲自分の考えを話したり、書いたりするときに、うまく伝わるように根拠を示し、話や文章を組み立てることに課題が見られた。

## 9 算数・数学の学習に対する興味

○多くの児童生徒が、「算数・数学の授業の内容がよく分かる」「算数・数学の勉強は大切だと思う」「将来社会に出たときに役立つと思う」と肯定的に感じている様子が見られた。

▲小学校では、「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」児童の割合が、やや低く、ノートへの記入の仕方に課題が見られた。

## 10 英語の学習に対する興味

○「英語の学習が好き」という生徒の割合が、全国・千葉県と比べて上回っており、「英語の勉強が大切だと思う」「授業で学習したことが将来社会に出たときに役立つと思う」と肯定的に感じている生徒が多かった。

▲「将来、積極的に英語を使う職業に就きたい」と思っている生徒の割合は、全国に比べて上回っているものの、全体的には少ない数値となっていた。

## 11 各教科の調査時間の適切性

□小学校の算数は、解答時間が十分であったと感じている肯定的割合が高かったが、国語は、解答時間がやや足りなかったと感じている割合が高かった。

□中学校の国語と数学は、解答時間が十分であると感じている肯定的割合が高かったが、英語は、やや足りないと感じている割合が高い傾向であった。

## IV 学校質問紙の概要

※ ○：良好なもの ▲：課題が見られるもの □：その他

### 1 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感

○学習規律や自己有用感を与える指導を行っている。

▲小学校では、将来就きたい職業や夢について考えさせる指導について、中学校では、特別支援教育について理解し、特性に応じた指導の工夫について、多少の課題が見られた。

### 2 カリキュラム・マネジメントなど、学校運営に関する取組状況

○指導計画の作成に当たっては、教育目標を踏まえ目標達成に向けて組織的に行っている。調査やデータに基づき、教育課程に関するPDCAサイクルの確立など、学校運営に積極的に取り組んでいる。

### 3 教職員の資質能力の向上

○校内研修に積極的に取り組んでいる。

○学習指導や評価の作成に当たり、教職員同士が協力しながら進めている。

▲言語活動を生かした授業などの課題における、職員間での話し合いや検討について、中学校で課題が見られた。

### 4 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善への取組は、概ね良好である。

▲学習時間に課題を設定し、まとめや表現に至る探究の過程を意識して指導することに多少の課題が見られた。

### 5 国語科の指導方法

○書く・読む習慣がつくように意識をして授業を組み立てている。また、漢字や語句などの基礎的・基本的な事項の定着を図るような授業を行っている。

▲発展的な学習の指導について、課題が見られた。

### 6 算数・数学科の指導方法

○多くの学校が、補充的な学習や計算問題の反復練習など、基礎基本の定着に向けた指導に取り組んでいる。

▲小学校では、実生活における事象との関連を図る指導について多少の課題が見られた。

## 7 英語科の指導方法

- 英語を聞いて、概要や要点を捉える言語活動を行っている学校が多かった。
- ▲英語スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動に課題が見られた。

## 8 ICTを活用した学習状況

- ▲プロジェクターや電子黒板などのICTを活用した学習活動等に課題が見られた。

## 9 小学校教育と中学校教育の連携

- ▲教育課程の接続や小中学校合同の授業研究、全国学力・学習状況調査の結果の共有などに関する小中連携について、課題が見られた。

## 10 家庭や地域との連携

- 保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などに参加している割合が、高い傾向であった。
- 職場見学や職場体験を積極的に取り入れている学校が多く、中学校では、市内全校で実施している。

## 11 家庭学習

- 児童生徒に家庭学習の方法を指導したり、家庭と連携したりするなど、家庭学習の取組について概ね良好であった。
- 家庭学習の課題の与え方について、中学校より小学校の方が校内で共通理解を図っていることと、家庭での学習方法などを具体例を挙げて教えている傾向が多く見られた。

## 12 全国学力・学習状況調査等の活用

- 全国学力・学習状況調査の学校全体での共有や、自校の分析結果の公表・説明を行っている割合は高い。